

植葉希望新聞

笑顔咲かせるために

励まし続ける「んだんだ会」

被災者とお茶会で広げる輪

会津若松市の沖井智子さん(59)、沖井玲爾さん(64)夫婦は、2012年1月、ボランティアグループ「んだんだ会」を設立した。きっかけは、東日本大震災と

原発事故後の物資届けだった。植葉町などからの避難者に、鍋や洗剤など約2000セットを関西の友人達と配った。配布後は「生活用品以外に、心のケアもし

き、気持ちを受け入れる」との思いが、こもっている。んだんだ会は、植葉町の避難者が過ごす仮設住宅な

ら、お茶会を開いて悩みを聞いたり、匂い袋や、数珠を作ったりしている。活動当初は避難者と壁があり、気持ちに寄り添うことが難しく、参加者も少なかった。しかし、ホスターを

掲示し、一人ひとりの趣味に合った対応の仕方を変えたことで多くの方々が集まった。参加者の顔がだんだんと明るくなっていったという。活動を通して、多くの植葉の人と、交流の輪が広がった。

今後は植葉の人が、自立できるように、サポートしていくという課題がある。まだ心のケアは始まったばかりだが、「んだんだ会」が中心となって関係がもっと深まってほしい」と智子さんは話している。

「んだんだ！」

(栗城美胡琴、上田明里、遠藤葉奈子)



植葉町の避難者を支援している沖井さん夫婦

活動記録冊子に

1300部を配布

沖井さんは活動内容をまとめた冊子「植葉町宮里邸仮設住宅会津の日々」を作った。

2011年からのお茶会や無料たこ焼き振る舞いなど、会の活動を写真付きで紹介している。この本には、「植葉町の人が帰る時に、会津での楽しい思い出を忘れないでほしい」との思いが込められている。

本は1300部つくり、会津美里町の仮設住宅の人々や、植葉町の住民に配った。沖井さんは「多くの

活動記録をまとめた冊子を手にする沖井さん夫婦



活動記録をまとめた冊子を手にする沖井さん夫婦

みんなの声で再出発

古里の味、植葉屋ラーメン

会津美里町の仮設住宅の前にある「ラーメン植葉屋」は、野崎(つとむ)さん(78)が平成26年7月7日に開いた。野崎さんは、3月11日に起きた東日本大震災と原発事故で、植葉町から会津美里町に避難してきた。野崎さんは、震災前まで、植葉町でラーメン屋を営んでいた。避難後に植葉町の子どもたちが「またラーメン食べたい」と、言っていたのを聞き、再オープンを決めた。

場所は野崎さんが住む仮設住宅のすぐ近く、コロッケ屋だった建物が空いたので、再開させた。植葉や福島、郡山はもちろん、東京から来てくれる人もいる。「懐かしい味。美味い」と言ってくれるのがうれしいという。

野崎さんが作るラーメンの野菜の80%は自家栽培

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

おいしい野菜を食べさせた。こたわり、小松菜・キウウリ・トマト・玉ねぎなどを栽培している。「消費者に

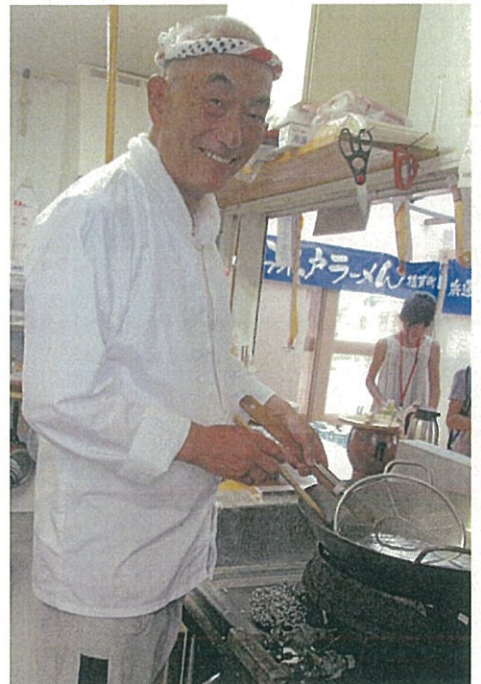
お客様スペース野崎さん手作り

店内のお客様スペースは手作り。かべは断熱材などを組み入れ、骨組みは鉄パイプでできている。客席は6席で少し狭いが、カウン

私たちが作りました



- 名古谷 慧(長沼小)
- 架谷 嘉人(鶴城小)
- 栗城 美胡琴(門田小)
- 川口 優真(河東学園小)
- 上田 明里(喜多方小)
- 佐藤 康平(会津若松ザベリオ学園中)
- 遠藤 葉奈子(福島三中)



ラーメン屋を再開させた野崎さん